(2) 風しんの合併症

麻しんのように合併症は多くありませんが、血小板減少性紫斑病や脳炎といった合併症を起こすことがあります。

血小板減少性紫斑病という疾患は、風しん患者の3,000～5,000人に１人の割合で起こりますが、体の中にある血小板が少なくなって、皮膚に出血のあとが沢山できたり、ひどいときは頭の中で出血したりすることもあり、入院して治療する場合がほとんどです。

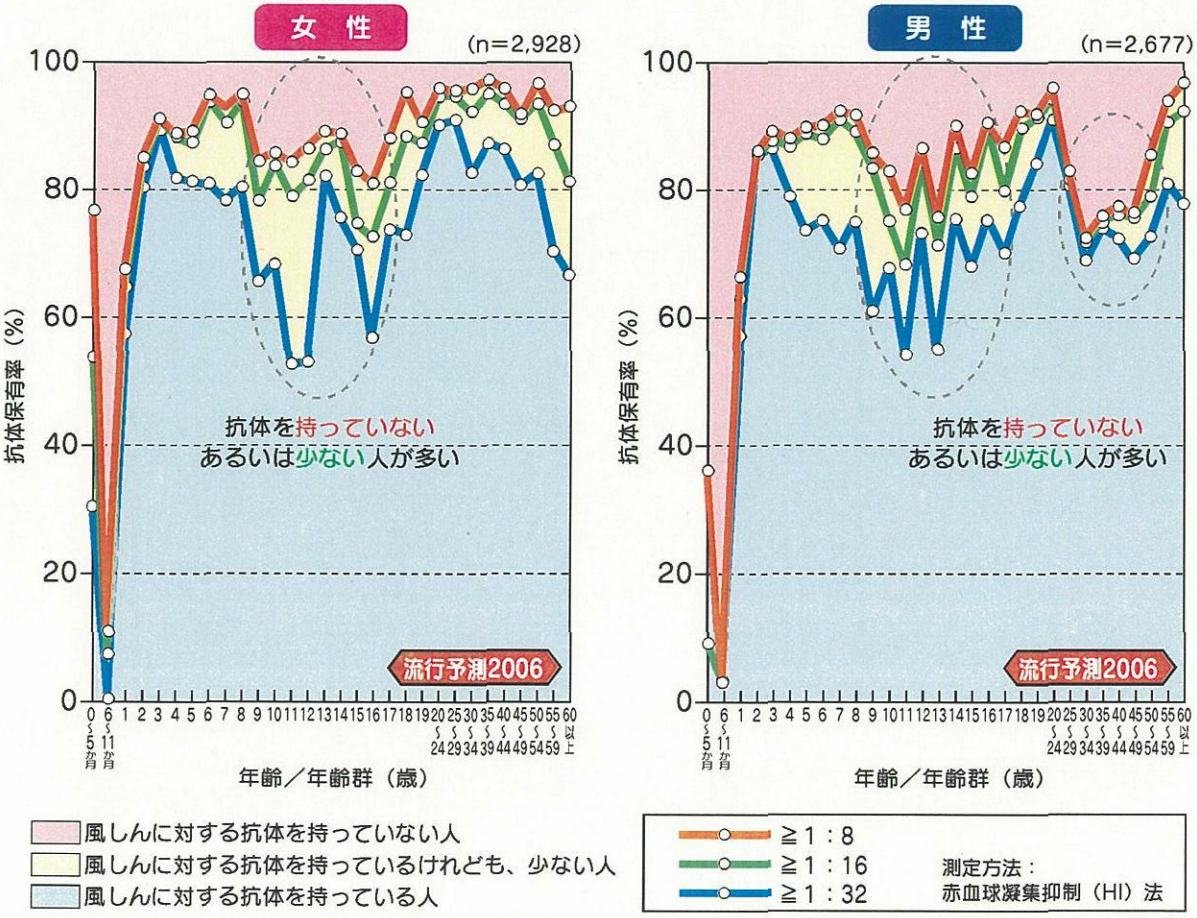
また、脳炎は、風しん患者の4,000～6,000人に１人の割合で起こり入院して治療する必要があります。

成人になって発症すると、手の指がこわばったり、痛くなることがあり、関節炎を伴うことが５～30%位あります。ただし、そのほとんどは自然に治ります。

(3) 先天性風しん症候群について

風しんは一般的には軽い疾患ですが、妊婦が妊娠初期に風しんを発症すると、風しんウイルスが胎児にも感染して、新生児に先天性風しん症候群（CRS）という疾患が現れる場合があるという点で重要な疾患です。

風しんに対する抗体保有状況（2006年度）



2006年度感染症流行予測調査事業より